

平成 26 年度日本生理学会第 1 回理事会議事録

日 時：平成 26 年 3 月 15 日（土） 13:00～17:00

場 所：サンプラザ天文館内 会議室 2F ホール

[出席者]

理事長 栗原 敏（議長）

理 事 明間立雄、石川義弘、入來篤史、上田陽一、宇賀貴紀、岡村康司、尾野恭一、小野克重、加藤総夫、狩野方伸、椛 秀人、亀山正樹、久野みゆき、久保義弘、黒澤美枝子、鯉淵典之、小西真人、小林 誠、白尾智明、関野祐子、多久和典子、多久和陽、竹森 重、當瀬規嗣、富永真琴、鍋倉淳一、松井秀樹、丸中良典、三木健寿、御子柴克彦、持田澄子、矢田俊彦、山本哲朗（計 34 名）

新理事 井上隆司、井本敬二、老木成稔、大森 治紀、久場 博司、澁木克栄、徳田雅明、船橋利也、船橋 誠、藤井 聡、前田正信、蒔田直昌、南沢 享、（計 13 名）

陪席者：岡田 泰伸、河西春郎、上窪裕二、蔵田 潔、倉智嘉久、佐久間康夫、佐々木和彦、少作隆子、津元、中島 昭、柚崎通介、和田真

[欠席者]

理 事：岡野栄之、泰羅雅登、高井 章、福田敦夫、八尾 寛（計 5 名）

新理事：赤羽悟美、小川園子、篠田陽（計 3 名）

監 事：川上順子、高松 研

定数 57 名に対し、47 名の理事が出席し、定款により、本理事会は適法に成立した。

報告及び協議事項

1. 理事長挨拶

第 91 回日本生理学会大会大会長へ、会員を代表して大会開催準備について御礼を述べた。資料にある前回議事録について、意見やお気づきの点があれば会議後に理事長へお知らせいただきたいとの説明があった。

2. 庶務報告（栗原理事長）

平成 25 年 12 月以降から現在の入会者数（78 名）、退会者数（41 名）、また会員総数（2916 名）とその内訳が報告された。

3. 財務報告（石川副理事長）

- 1) 平成 25 年度決算について改善傾向であることが報告された。
事務所完全移転に伴い、経費が抑えられたこと、過去の書類やジャーナルは倉庫に預けている旨報告された。
- 2) 平成 26 年度予算から認定エデュケーター制度収入（約 300 万円）が見込まれる旨説明があった。

4. 編集・広報委員会報告（多久和委員長）

- 1) 日本生理学雑誌刊行にかかる経費節減として、地方会抄録の 76 巻 3 号から Web 版にする意見が委員会で出た旨報告され、理事会で承認された。社員総会で承認された場合、Web 版に移行することが説明された。
- 2) 学会ホームページの更新については、グループディナー単位でトップビジュアルのデザインのアイディアを 4 月 14 日まで募っていることが説明された。

- 3) 医学中央雑誌刊行会より、医中誌 Web に日本生理学雑誌掲載の依頼があったことが報告された。また多久和委員長より医中誌 Web に掲載された場合のメリット、デメリットが説明された。
- 理事会で承認されたので、総会で報告する。

5. JPS 編集委員会報告 (石川委員長)

日本を含めたアジア各国の他、アジア以外の国からの投稿も増えたことが報告された。IF が平成 24 年度に下がったが、今年は下げ止まり、0.1 ほど回復したことが報告された。午前中に開催された委員会で、生理学会が発表している動物実験等倫理規定が古いと指摘された。動物実験の指針として利用されるためにも、研究倫理委員会に更新を検討してほしいとの要望が出された。

これを受けて、一学会が指針を出す意義や事実関係を委員会で確認して欲しいとの要望が理事から出た。

オープンアクセス化が始まることが報告された。

IF を上げるためには、教室で論文を投稿する際に JPS の引用が欠かせない旨説明があり、各理事に協力を呼びかけた。

6. 会員委員会報告 (亀山委員長)

会員数の増加を図るため、①入会手続きの簡略化、②専門パネルの改正、③個人賛助会員の設定、④若手会員の創設などについて、継続審議している。

また、学会発表を目的として入会する臨時会員制度について、委員会から次のような提案があった。

- 1) 生理学会大会において一般演題を筆頭著者として登録・発表する場合、非会員は臨時会員となってその資格を受けることができる。ただし臨時会員は総会での議決権および機関誌の頒布を受ける権利を有しない。
- 2) 臨時会員の審査は大会長が行い、学会事務局に報告する。
- 3) 臨時会員の会費は、正会員として入会し演題発表を行うとする際に要する会費の半額とし、演題登録時に納入しなくてはならない、臨時会員の有効期限は発表年度の末までとする。

これに対し副理事長から、2 月 11 日に開催された正副理事長会議で審議しており、2) については、会員である以上臨時会員の審査は理事長がおこなうべきという案がでていた旨報告された。これを受けて臨時会員の審査は理事長が行うこととする。

3) については、事務局への負担も考慮して、1 回のみでの会費納入で済むよう検討してほしい旨、要望が出された。これに対して委員長から、事務手続きの簡素化を考慮しつつ継続審議する旨回答された。

7. 選挙管理委員会報告 (明間委員長)

地区別理事選挙をオンライン選挙で実施し、全国 8 地区の当選者と次点者を選出したことが報告された。

8. 教育委員会報告 (鯉淵委員長)

以下について報告、説明があった。

- 1) 第 91 回日本生理学会大会にて教育プログラムを開催する。
 - 2) 第 92 回日本生理学会大会は日本解剖学会と合同で開催するが、この会でも教育プログラムを開催する方向で考えており、日本解剖学会の八木沼洋行福島県立医科大学教授と話し合っている。現段階では講師はそれぞれ半数拠出することとなっている。
 - 3) 生物科学学会連合より、高校の生物の教科書を見直してほしいと依頼がきたため、急きよ委員内で役割を分担し、対応にあたっている。1 年半かけて見直す予定。
- 生理学エデュケーター認定制度委員会と共同で、エデュケーター出願受付を今年 7 月から始めることを提案したところ、異論が無く承認された。

9. 生理学エディタースタッフ認定制度委員会（中島委員長）

データ管理の簡素化を図るため、教育プログラムへの出席をバーコード管理することとし、日本生理学雑誌 76 巻 1 号に挟み込んで、会員に配布したことを報告した。出席のポイントは、マイページで各会員が確認できるようにした。

10. 学術・研究委員会（加藤委員長）

- 1) 第 91 回日本生理学会大会 3 日目に、研究・倫理委員会と JPS 編集委員会との合同企画としてフォーラム「より良い論文をより多く出して行くための傾向と対策」を開催する。問題を共有し対策を練ることが目的であり、演者は JPS 編集委員会石川義弘委員長、研究・倫理委員会蔵田潔委員長、JPS 編集委員会久保義弘 Deputy editor-in-Chief of The Journal of Physiology、オープンアクセス化したジャーナルを担当されている宮川剛藤田保健衛生大学教授とする。
他のプログラムと重複しない時間で開催する。
- 2) 科学研究費補助金に関するキーワードの見直しの可能性はあるものの、改訂の提案を学会に求める可能性は低いとの情報から、現行の分類表の整理と分類にとどめ、調査を開始した。
- 3) 生理学会の学術研究活動の国際的水準維持や FAOPS2019 開催、会員層の拡大を目指すために、大会等における発表言語の新たな建設的指針を設けることを今後の課題としたい。

11. 他学会連携委員会（黒澤委員長）

第 91 回日本生理学会大会で、他学会と連携した 10 シンポジウムを開催することを報告した。日本生理学会内では他学会との連携は軌道に乗ってきたように認識している。しかし他学会からの視点では必ずしもそうではないことが、今後の課題として挙げられる。

12. 研究倫理委員会報告（蔵田委員長）

- 1) 生理学認定エディタースタッフ制度を実施する際に、研究倫理委員会委員あるいは研究倫理委員会が推薦する講師を採用してほしいと提案した。
- 2) 以下の理由から、研究倫理委員会は生理学認定エディタースタッフ制度に参加したいと提案した。
 - ・研究倫理委員会企画シンポジウムを開催しても、参加者を募ることが難しい。
 - ・現在研究倫理が世間で問われている中で、研究倫理委員会としては若手の養成に貢献したい。上記 2 点の提案について教育委員会委員長からは、研究倫理委員会が推薦する講師を歓迎したい旨、回答があった。

13. 利益相反委員会報告（蔵田委員長）

日本生理学会では、平成 25 年に開催された地方会から、演題登録時に利益相反の有無のチェックが実施されるようになった。利益相反（日本語版）を作成したが、今大会では英文での利益相反申告の希望があり、英語版が必要となった。そこで日本語版を基に英語版文案を作成したので、理事会にて審議および意見を求めた。3 月 17 日に開催される総会までに、英語版に対して意見がある場合は蔵田利益相反委員会委員長へ伝える。総会以後は梶秀人新利益相反委員会委員長へ伝えることとする。

14. 国際交流委員会報告（久保委員長）

- 1) 第 91 回大会での KOJACH シンポジウムについて、日中、日韓の 2 つに分けての実施が決まった。予算規模は今までどおりである。FAOPS2019 を意識し、副題に「Towards FAOPS2019」とつけることとした。日韓シンポジウムについては日本主導でテーマ、演者を決定し（井上先生に依頼）、韓国からの招聘演者を 1 名招くこととした。また韓国側より今後韓国大会でも隔年（次回は 2015 年）で日本から演者を招きシンポジウムを開催したいとの要望があり、承諾した。
第 91 回大会では、次のシンポジウムを開催する。

CAPS-PSJ シンポジウム

期日 : 3月16日

来日講演者 : 3名 (招待講演者1名、他2名)

KPS-PSJ シンポジウム

期日 : 3月18日

来日講演者 : 1名 (招待講演者)

- 2) オーストラリア生理学会 (AuPS) 大会 (2014年11月30日~12月3日) へ応募したシンポジウム提案1件は、採択されたことが報告された。シンポジウム1件に対してAuPSより2,000ドルのサポートが与えられる。
- 3) スカンジナビア生理学会 (SPS) 大会 (2014年8月22日~24日) へ応募したシンポジウム提案1件は、現在最終選考中であり、結果連絡待ちであることが報告された。なお採択された場合、SPSよりの旅費支援はない。
また SPS より日本生理学会 (PSJ) 会員へ大会参加を促すよう依頼があったため、編集・広報委員会より周知した。
- 4) FAOPS2015 (タイ) に応募したシンポジウム提案2件については、採否連絡を待っていることが報告された。
- 5) 中国生理大会 (CAPS) 大会 (2014年10月24日~27日) からシンポジウム提案要請が届く可能性があることが示唆された。
- 6) 第92回生理学会・解剖学会・合同大会 (2015年3月21日~23日) で、国際交流関連シンポジウム企画を依頼された。CAPS-PSJ、KPS-PSJ を軸に解剖学会と協力して企画する予定であることが報告された。
- 7) アメリカ生理学会 (APS) より学会をまたぐシンポジウムの周知依頼があったため、編集・広報委員会より PSJ 会員に周知した。

理事長より、海外でのシンポジウムに積極的に参加してほしいと呼びかけがあった。ただし渡航費用は PSJ からは捻出できない。

15. 集会委員会 (福田委員長代理 : 上田委員)

- 1) メール会議で、大会長未定の大会について「大会長候補者のリストアップ」を行い、推薦者から被推薦者へ承諾等の意向を確認することとする。
- 2) 第91回大会長から当該大会の概要、第92回、第93回大会については、各大会長より準備状況が説明された。
- 3) 第96回大会長については、FAOPS2019 組織委員会委員長が検討している。

16. 将来計画委員会報告 (白尾委員長)

3月6日に開催された委員会で、以下の案件が理事会に提案された。

- 1) 若手の会運営委員会から新規委員長を迎えるために、委員定数を増やすことが提案された。
これに対し、若手の会運営委員会委員長に就任した者は自動的に将来計画委員会委員となること
が、理事会で承認された。
- 2) 第92回大会で、将来計画委員会と若手の会運営委員会合同のシンポジウムまたはパネルディスカッションの開催を希望。
大会長に権限がある案件のため、理事会では審議はおこなわないこととする。
- 3) 日本人若手のためのトラベルグラントの新設を各大会長に希望。
大会長の権限であるため、決定は各大会長に委ねることとする。
日本生理学会として、トラベルグラント給付は今後検討する事項であることが、理事長より説明された。
- 4) 理事会より男女共同参画推進委員会へ、改めて男女共同参画推進を働きかけてほしい。
男女共同参画推進および、理事の女性比率に対する具体的な数値目標を提示するよう、理事会から男女共同参画推進委員会へ働きかけることとする。

将来計画委員会で指摘された、教育講演に受講者が集中する件については教育委員会委員長から、教育委員会が大会時に開催する教育講演については、第 92 回大会の状況をみて対応すると報告された。地方会をエデュケーター制度のポイント付与対象とする件についても、教育委員会の検討事項とする。

17. 男女共同参画推進委員会報告（関野委員長）

- 1) 委員の交代、現委員長の継続就任が報告された。各委員会・関連分野との連携を強めるため、現状の構成に加えて、今後研究倫理委員会からの推薦も依頼することとする。
- 2) 男女共同参画推進のため理事における女性の比率数値目標を 20%に定めることを、将来計画委員会と相談のうえで定めた。2020 年には数値目標を 30%とすることとした。数値目標達成のための具体的活動内容については、今後も検討項目とする。
- 3) 前回理事会で、特別会員 1 名の推薦の承認を得たが、具体的な活動については今後継続しておこなうこととする。
- 4) 第 3 回大規模アンケート調査の結果に基づき、第 12 期男女共同参画学協会連絡会を担当する日本数学会とともに、要望書を作成した。内閣総理大臣および担当大臣に要望書を提出するにあたり、要望書に日本生理学会が名を連ねることを理事会に諮り、承認された。

18. 賞選考委員会報告（松井委員長）

平成 25 年度日本生理学会奨励賞には計 8 名の応募があった。賞選考委員会にて投票した結果、3 名が選出された。公平性を保つため、投票を取りまとめる委員長には投票権を付与していない。2014 年度山田科学振興財団研究助成に 1 名推薦した。

19. 入澤若手賞選考委員会（尾野委員長）

平成 25 年度入澤記念若手賞には 13 名の応募があり、選考をおこなった。イオンチャンネル・トランスポーター部門 2 名、心臓・循環部門 1 名が選出された。規程では心臓・循環部門は 4 名選出することとなっているが、研究レベルの重視を選考方針とした結果、平成 25 年度は 1 名選出となった。

20. 入澤賞運営委員会（持田委員長）

平成 25 年度受賞者の報告がされた。
以下の事項が入澤賞運営委員会メール会議で審議され、理事会に諮ることとした。

- 1) 入澤宏・彩記念若手研究奨励賞の規程のうち、下記事項の改定。
「3 年以上の正規会員で、正会員歴を有する科研費の年齢に準ずる日本生理学会の会員を対象とする」

改定案

「正会員歴を有する 42 歳以下の日本生理学会の会員を対象とする」

理事会で審議の結果、上記規程を改定することが承認された。

- 2) 入澤基金運営規程第 3 条に則り、原則として規程通りの受賞者数を選考するよう求める。（第 3 条：奨励金の対象者は、原則として、「若手研究奨励賞」6 名、「JPS 心臓・循環論文賞」1 名、「入澤彩記念女性生理学者奨励賞」1 名とし、毎年授与する。）

心臓・循環部門については、心臓・循環部門の若手育成と生理学会会員を増やすことを目的としているため、規程通りの受賞者数選出を希望する意見が出された。

また入澤賞運営事務局に報告するために、毎年選考過程を記録することを望む意見が出され、承認された。

21. 生理学女性研究者の会運営委員会報告（少作委員長）

- 1) 第 4 回入澤彩賞の選考結果が報告された。応募者 6 名を選考委員 5 名が選考する過程で、委員間の意見が完全一致するには至らなかった。今後は受賞者数を 1 名に限定せず、場合によ

っては2名選出することが、提案された。2名受賞者を選出する場合は、賞金は各50万円とする。

この提案に対し、次の意見が出された。①年齢制限をはずす場合は2名受賞者も可とするが、年齢制限を維持する場合は1名受賞のままとする。②全員一致で選出することは難しいので、今回みられる最終投票結果は、今後も起こることが予測される。現状のまま、1名受賞選出で問題はない。

審議の結果、当面入澤彩賞は1名受賞者を選出することが承認された。

- 2) 平成26年度の生理学女性研究者の会運営委員会(WPJ)の委員長および委員が報告された。WPJ企画委員1名は、現時点では未定だが、決まり次第報告する。

22. 若手の会運営委員会(上窪委員長)

- 1) アウトリーチ活動の一環として12月14日には三鷹市にて一般向けのサイエンスカフェを開催した。約40名が参加した。
- 2) 第91回日本生理学会大会では、プレゼンテーションをテーマにシンポジウムを開催予定である。
- 3) 委員長の交代を報告した。

23. 義援金配分委員会(佐々木委員長)

- 1) 第90回日本生理学会大会参加者のうち、申請があった14件の東日本大震災被災三県からの参加者へ、参加登録費返還をおこなった。
- 2) 義援金を基金として設けた下記3つの地方会賞の受賞者選考および授与をおこなった。
 - ①東北日本生理科学奨励賞
 - ②東北日本生理科学有志賞
 - ③学部学生年会費の半額補助
- 3) 第91回日本生理学会大会でも東日本大震災三県からの参加者に対して参加登録費の返還申請の受付がおこなわれていることを報告した。
- 4) 委員長の交代を報告した。

対象会員のうち、申請者は年会費全額免除する等、より義援金を活用することが提案された。これに対し、補助枠を拡大して助成範囲を広げることを新委員長に申し送りすると委員長から回答があった。

24. フィジオーム・システムバイオロジー推進特別委員会(倉智委員長代理:津元氏)

第91回日本生理学会大会にて、シンポジウム「フィジオーム・システムバイオロジー研究の現状と課題:我が国における取り組み」を開催予定である。

25. 日本学術会議(河西連携委員)

- 1) 日本学術会議は3年を一期として活動しており、平成26年は第22期の最終年度にあたる。現在第22期の報告を作成しており、完成後は日本学術会議のホームページに公開予定である。
- 2) 機能医科学分科会は日本生理学会の強い支援を受けてマスタープランを提出し、採択された。プランについては平成26年4月に日本学術会議のホームページからダウンロードできる予定である。
- 3) 平成26年10月から始まる第23期でも、メンバー交代があると予想されるが、機能医科学分科会の設置を予定している。
- 4) 第92回日本生理学会大会で生理学・薬理学の合同シンポジウムが企画される場合は、日本学術会議で後援することを提案する。
- 4) の提案については大会長の裁量によるものである。後援の場合は①合同シンポジウムに日本学術会議の名前を冠することを希望、②日本学術会議から費用は出ないことを確認し、第92回日本生理学会大会大会長が検討することとなった。

26. 日本医学会評議員会報告（加藤評議員）

- 1) 日本医学会の一般社団法人化について報告された。
基礎社会部会会議（平成 25 年 10 月 3 日）、臨時評議員会（同年 12 月 4 日）において、下記 2 点の説明があった。
 - ①日本医師会は「日本医師会は日本医学会を置く」と謳う定款を変更せず、また日本医師会の承認なく日本医学会の名称の使用を許可しない。
 - ②日本医学会の法人化は進める。登記は平成 26 年 4 月 1 日付の予定。
- 2) 日本医学会の今後の方向性について、定例評議員会（平成 26 年 2 月 19 日）で審議および承認された次の件について、報告された。
 - ①日本医学会は「日本医学会連合」として活動する。
 - ②日本医師会から運営資金が入らないため、運営体制を見直す必要がある。会員から年会費を徴収することとなり、日本生理学会は約 20 万円支払う。
 - ③平成 27 年に第 29 回、2019 年に第 30 回日本医学会総会（名古屋市）を開催する予定である。

27. 日本医学会用語委員会報告（柚崎委員）

平成 25 年 12 月 4 日に用語委員会が開催された。

日本医学会主導の学会を越えた用語統一が一向に進んでいないことから、日本生理学会内で用語ワーキンググループを立ち上げる事となっていたが、現時点では私案のみで決定していない。アドバイスがあれば、第 91 回日本生理学会大会会期中に委員長へ伝えることとする。ワーキンググループで使用予定のサーバーについては、現在日本医学会へ問い合わせている。

28. 国際生理科学連合（IUPS）報告（御子柴理事）

平成 25 年 7 月 21 日から 26 日まで英国バーミンガムで開催された。また同総会にて、次回の IUPS2017 をブラジル（リオデジャネイロ）で開催することが改めて承認され、次々回の IUPS2021 は中国（北京）での開催が決定した。正式承認は次回の IUPS 大会でおこなわれる。今回 General Assembly の代議員は参加者の中から急きょ選考したが、重要な案件に対する投票等がある場合を考え、代議員選考のルールを作成することが提案された。ただし代議員を選出する決定権は IUPS 理事会が持っており、日本生理学会のみで決めることはできない。また現時点では代議員は今回参加した 5 名が登録されている。

29. FAOPS 報告（岡田前会長）

FAOPS News Letter Vol.20 が平成 25 年 11 月に、FAOPS ホームページ上に発行されたことが、報告された。

第 8 回 FAOPS2015（平成 27 年 11 月 22 日～25 日バンコク開催）については、一斉メールで会員に周知済みであることが、編集・広報委員会委員長より報告された。FAOPS2015 のホームページがまだ公開されていないので、FAOPS のホームページにリンク済みであることが確認された。平成 26 年 5 月に日本生理学会のホームページを刷新する際には、FAOPS の項目を現在より目立つようにする予定である。

30. FAOPS2019 組織委員会報告（鍋倉委員長）

平成 26 年 1 月に担当業者を選定するため、ヒアリングをおこなった。現在選考中であり、4 月には決定する予定。

FAOPS2019 は日本生理学会大会との合同開催であり、名古屋市開催で考えてきたが、自治体等からの開催補助や立地の利便性から、現在は神戸市を第一候補に据えている。

さらに FAOPS2019 についての会員への周知が大事であることが確認された。

FAOPS の正式日本語名が決定したら、周知したほうがよいとの意見が出された。

31. 生物科学学会連合報告（小西連絡委員）

教科書問題検討委員会を開催した。高校レベルの生物教育用語集を作成すること、および学習指導要領に意見を反映させることを目指し、日本生理学会からは澁谷委員が出席した。実際の査読作業は教育委員会が担当する。

32. 脳科学関連学会連合報告（伊佐評議員代理：加藤評議員）

平成 25 年第 2 回理事会開催以降の動向として、日本脳科学関連学会連合へ新規入会申込書を送付した。

臨床系学会は、提言を広く周知するために連合を活用している。今後日本生理学会としても声明を出すなど、重要な主張を表明するための媒体として、連合を活用いただきたい。

年会費として 3 万円を支払っている。

33. 第 91 回日本生理学会大会準備状況報告（亀山大会長）

平成 26 年 3 月 16 日（日）～18 日（火）に鹿児島大学郡元キャンパスで開催される。特別講演は金澤一郎国際医療福祉大学教授を予定していたが、ご病気のためキャンセルとなり、急きょ柳田充弘沖縄科学技術大学院大学教授に依頼したところ、快諾いただいた。

ポスター会場の空きを利用して、萩原生長、田原淳、入澤宏・彩夫妻、鹿児島ゆかりの学者の紹介をおこなう。大会初日・2 日目に公開講演会を開催する予定。

34. 第 92 回日本生理学会大会準備状況報告（岡村大会長）

平成 27 年 3 月 21 日（土）～23 日（月）に神戸コンベンションセンターで開催される。日本解剖学会の河田光博会頭と日本生理学会の岡村康司大会長が担当する。テーマは「体のフロンティア—知る、深める、極める—」。プログラムはこれから検討していくが、プレナリーレクチャーについては、Charles Zuker 先生、坂野仁先生、Walfgang Baumeister 氏、藤吉好則名古屋大学教授、大隅良典東京工業大学特任教授に依頼している。また市民公開講座を実施する予定である。

合同懇親会は 2 日目に予定している。

基礎医学の重要な学会である解剖学会と当学会の合同大会は、医学関連集会の歴史からみても画期的な開催であるので、是非協力をお願いしたい。

財団法人大阪腎臓バンクは、当学会が共催するにふさわしい法人か、という質問があった。それに対して岡村康司大会長から、寄付金の免税措置をとるには適した公益法人であり、共催にふさわしいとの回答があった。

35. 第 93 回日本生理学会大会準備状況報告（當瀬大会長）

平成 28 年 3 月 22 日（火）～24 日（木）に札幌コンベンションセンターで開催される。

大会長は高井章旭川医科大学教授、當瀬規嗣札幌医科大学教授が務める。

36. その他

特になし

議題

1. 平成 25 年第 2 回理事会議事録について

報告事項 1 6 2) を以下のように修正する。

「編集広報委員長からの依頼で、アウトリーチに関するホームページをどのようにするかを検討することとなり、アウトリーチ・タスクフォースの前田正信座長に連絡を取る予定である。返事を待ち、2014 年 1 月～2 月の間に委員会を開催する予定である。」

2. 理事の改選に伴う新体制について

1) 地区別理事

承認された。

2) 特別幹理事

a) 特別幹理事選出規程案

- 承認された。
- b) 特別幹事候補者
承認された。
- 3) 国際幹事
a) 国際幹事選出規程案
承認された。
- b) FAOPS2019 運営代表者の理事会出席
- 4) 委員会
a) 委員会規程案
承認された。
- b) 次期委員長候補者の承認
下記の委員会で委員長交代することが報告され、承認された。

委員会名	現委員長	新委員長
他学会連携委員会	黒澤美枝子	赤羽悟美
研究倫理委員会	蔵田潔	柁秀人
利益相反検討委員会	蔵田潔	柁秀人
集会委員会	福田敦夫	富永真琴
義援金配分委員会	佐々木和彦	八尾寛
生理学女性研究者の会運営委員会	少作隆子	藤山理恵
若手の会運営委員会	上窪裕二	和田真

- 5) 理事選挙規則の改定
承認された。
- 6) 定款の改定
承認された。
3. 平成 25 年度会計報告
石川副理事長から報告がおこなわれた。また、栗原理事長から事務局完全移転の補足説明があった。
4. 平成 26 年度予算
石川副理事長が説明した。
5. 次期理事長候補者推薦委員会の委員選出
開票立会人を選挙管理委員会委員長とし、現理事が投票した。選挙の結果、7 名の委員と次点 3 名が選出された（上田陽一、岡村康司、狩野方伸、黒澤美枝子、高井章、福田敦夫、丸中良典）。選出された者の辞退等により次点者が繰り上がる場合は、年齢順（年長者優先）とする。
委員長は委員 7 名の投票により、決定する。
平成 26 年 10 月までには次期理事長候補者を擁立することとする。
6. 医学中央誌への対応について
理事長より経緯が説明され、諮ったところ承認された。
7. その他

以 上